

# 地域連携推進会議議事録

## 1. 会議概要

- ・会 議 名：令和7年度第1回地域連携推進会議
- ・開 催 日：令和7年10月23日（木）
- ・開催時間：10：00～12：00
- ・開催場所：（事業所見学）福山学園・寒山焼き工房 （会議）福山学園3階体育館

## 2. 出席者一覧（敬称略）

### 〔福山学園〕

- ・福山学園園長 池端 清孝
- ・福山学園課長兼サービス管理責任者：中馬 吉美
- ・福山学園男性主任：岸川 祐輔
- ・福山学園女性主任：堀内 博美
- ・福山学園利用者（自治会長）：川野 洋一
- ・福山学園保護者：小牟田 まゆみ

### 〔オレンジハウス〕

- ・オレンジハウスサービス管理責任者：竹下 洋実
- ・オレンジハウス入居者（自治会長）：笠井 克洋
- ・オレンジハウス保護者：笠井 博子

### 〔地域〕

- ・霧島市障害福祉主査：森 伸太郎
- ・大廻地区自治公民館館長：福岡 安行
- ・大廻地区自治公民館区長：梅北 秋男
- ・大廻地区民生員：坂元 節子

## 3. 事業所案内・見学

会議に先立ち、構成員による施設見学を実施。まず初めに当事業所内（窯業室を含む）を案内し、実際に利用されている方々の普段の生活の様子を見ていただいた。

なお、見学は地域連携推進会議とは目的が異なるため、制度の趣旨に沿って別枠で対応した。

利用されている方々の表情、職員の声かけ、空間の雰囲気などを通じて、支援の実際を体感していただくよい機会となった。

## 4. 会議目的

事業所と地域との連携を通じて、①利用者と地域との関係づくり、②地域住民による施設や利用者への理解の促進、③サービスの透明性と質の確保、④利用者の権利擁護を図ることを目的とし、事業所が外部の視点を取り入れて設置する会議体である。

## 5. 議題と内容

### 1) 園長あいさつ

園長より、地域連携推進会議の開催にあたり、日頃の地域の皆様のご理解とご協力への感謝が述べられた。また、利用者の暮らしを地域と共に支える意義について触れ、今後も開かれた施設運営を目指す旨が伝えられた。

### 2) 施設概要説明（振り返り）とサービスの透明性・質の確保について

- ・利用者の日常生活の様子について

写真やエピソードを交えながら、利用者の生活リズムや活動内容について報告があった。

また日々の支援の中で大切にしている視点や職員の関わり方についても共有された。

- ・入所者の必要経費（生活費・利用料等）の説明

利用者が負担する費用の内訳（生活費、光熱水費、日用品費、サービス利用料等）につい

て、それぞれの項目に関する説明が行われた。

- ・個別相談のご案内と地域支援の取り組みについて

経済的事情に応じた個別相談の実施について案内があり、必要に応じて柔軟に対応していることが共有された。また、ライフサポートワーカーとして、地域で福祉的な困りごとを抱える方々の相談窓口としての役割を担っており、必要に応じて関係機関や行政部署と連携を図っている旨が説明された。

### 3) 地域理解の促進と地域の連携（担当：竹下）

- ・障害について（地域理解促進）

知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害、肢体不自由など、さまざまな障害特性について、資料を用いて説明が行われた。参加者からは「表面上では違いが分かりにくく難しいが、今回の会議を機に障害について学びなおしてみたい」との声もあり、地域住民の理解促進に向けたきっかけにもなり有意義な機会となった。

- ・地域行事への協力・交流活動

①地区運動会準備への協力状況 ②年2回実施している地区清掃活動への参加状況

③施設内行事（例：ゆうゆう運動会）への地域住民の招待

④地区グランドゴルフ大会（11月30日予定）への参加依頼→来年2月の大会に招待される。

これらの取り組みを通じて、地域との相互理解と信頼関係の構築を図っていることが報告された。

### 4) 利用者の権利擁護（担当：岸川）

- ・人権擁護アンケート集計結果の共有

利用者支援に関する人権アンケート結果をもとに、職員の対応や支援姿勢に関する評価が報告された。

- ・福山学園行動規範について経緯と内容説明

行動規範について、各項目『望ましい行動』と『避けるべき行動』の対比について一つずつ説明する。参加者より利用者の意思を尊重する支援体制の整備状況に対して「素晴らしい、今後も継続して続けてもらいたい」との声を頂いた。職員研修の実施内容についても参加者より良い評価をして頂いた。

## 6. 参加者からの質疑応答

### ◎ 参加者より、支援に対する評価と、地域住民とのさらなる交流機会の拡充についてご意見・ご質問が寄せられた。

#### ①施設見学と支援体制への評価

- ・施設見学を通じて、環境が整っており、職員と利用者との関係性がしっかり築かれていると感じたとの声があった。
- ・会議の中で示された支援に対する取り組みや、行動規範の策定とその経緯についても評価があり、「しっかり定められていて良いと思った」との意見があった。生活の質や一人ひとりの幸せを大切にしている姿勢が伝わり、地域との交流・活動を通じて「お互いの世界が広がる感覚がある」との感想も寄せられた。

#### ②事業所の変化と地域とのつながり

- ・長年地域にある事業所として、高齢化の進行を感じる一方、施設が立派になり、利用者の方々も喜ばれている様子が印象的だった。地区の行事への参加を楽しみにしているとの声もあった。

### ③高齢化と関わり方の変化

- ・ 地域住民自身も高齢化が進む中で、利用者との関わり方も変化していくことが予想される。今後は、事業所の若いスタッフの協力も期待したいとの意見があった。

### ④人権チェックリストと寝具に関する質問

- ・ 年2回実施されている人権チェックリストについて「素晴らしい取り組み」との評価があり、人権を尊重する姿勢が伝わったとの声があった。
- ・ 寝具に関する質問もあり、これに対して主任より「月2回業者による包布交換を実施していること」や「必要に応じて職員が洗濯対応していること」「利用者が個人で寝具を購入するケースも増えていること」が説明された。

### ⑤障害理解への意欲

- ・ 障害についてまだ十分に理解できていないが、今回の会議を機に学びを深めていきたいとの前向きな意見があった。

### ⑥地域との交流への期待と感謝

- ・ 施設見学ができて良かったとの声があり、地域行事への参加を楽しみにしているとの感想も寄せられた。「いつもお世話になっております」との感謝の言葉もあった。

## 7. 総括（園長より）

園長より、会議の締めくくりとして以下の言葉が述べられた。

「時代の流れとともに、必要とされることも、そうでないことも様々に変化していきます。私たち事業所も、国の方針や限られた予算の中で工夫を重ねながら、その時々に応じた対応をしてきました。

その中で、利用者の皆さんの幸せを大切にしながら、同時に支える職員のことも守っていく立場として、日々一生懸命取り組んでいるところです。

今回のような地域連携推進会議は、制度上の開催ではありますが、目的に沿いながら利用されている方々、そしてその方々を支える職員の双方を育て、守っていくための大切な機会だと考えています。

今後も地域の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、これからも一緒に歩んでいければと思います。今日はご参加ありがとうございました。」

## 8. 閉会

総括の言葉をもって、地域連携推進会議は温かく締めくくられた。

以上